【議事】定 38

（1）防災のための地球観測衛星等の利用に関する検討会報告書について

文科省の千原室長が資料 38-1（防災・検討会報告）を説明した後、多少の質疑応答があった。質疑応答には内閣府の三浦企画官も参加した。

青江：GCOM の前例があるとおり、このような手順を踏むことが大切であり、活動を高く評価[1]したい。6 ページの③に示す実証実験は良いことであり、内閣府の地震調査研究推進本部に ALOS のデータが集まるのは良いが、その先にどういった部署に届けられ、本当に役に立つのか、更にフィードバックがかかると良い。リーチの度合いはいかほどなのか。

文科省千原：地球観測データの利用は現在拡大中であり、現在のところ警察と消防に届くようになっている。

青江：警察と消防ではつまらない[2]、自衛隊や防災訓練をする人のような末端に届くかということである。

文科省千原：本省に同時に届くようにはできるが、担当自治体の中で充実させるのには時間が掛かる。

青江：是非実現させてください。

内閣府三浦：情報プラットフォームに「だいち」の情報を載せる、載せ方などの技術開発を行っている。防災の前線に立つ方々が平時からデータを見ていただくようにしないと、災害時に急に使うということはできないので、大切なことだと思う。

森尾：「だいち」利用で次に備えるのは良い。ところで「六つを横断的に見るのはこの委員会でやるのか。

文科省千原：六つのワーキンググループで検討を進めるが、適宜委員会にかける。

井口：これが上手く行けば、衛星を次から次に上げなければならない。これは委員会の仕事ですが。…

松尾：「有れば良い」との記述が多いが、もっと決定的な記述があれば、更に良い。

文科省千原：もっと頻度を高めて欲しいとか、様々な要求が有るので、なかなかそこに至らないのが現状である。勉強していきたい。

井口：携帯が普及したことにより、色々な写真が提供されて、報道に使われている。宇宙のデータももっと活用ができるはず[3]で、一層の研究を進めていただきたい。

---

[1] 高く評価しながらも、その後すぐに更に高い要求を突きつける。モチベーションを高めてから一気に落とさせるようなやり方ではなかろうか。

[2] 上記と同じ性急な要求である。「実証実験」の段階であらゆるユーザーにデータ発信したいのか。まずは、「実証実験」でデータを集め、検証して、成果を公開すれば、ユーザーの方から接近してくる。携帯電話のサイズが、無線の電話子機より小さくなった頃から、爆発的に普及した前例がある。

[3] これが怖い。「はず」とか「べき」で事業計画が進められたら、その時点から思考停止が起こるため、誤った方向に進む可能性が高まる。